

多次元の確率分布と独立性

樋口さぶろお <http://hig3.net>

龍谷大学工学部数理情報学科

確率統計☆演習 I L06(2018-10-31 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2018-11-02 Fri 16:17 JST hig"

今日の目標

- 同時分布から周辺分布, 母期待値, 母共分散が計算できる 前園確率統計 p.50,p.56
- 確率変数の独立性を判定し利用できる 前園確率統計 §2.5



L05-Q1

Quiz 解答:離散的な確率変数の母平均・母分散・母標準偏差

$$\textcircled{1} \text{ 期待値 } E[e^X] = \frac{4}{12} \cdot e^{-1} + \frac{5}{12} \cdot e^0 + \frac{3}{12} \cdot e^2.$$

$$\textcircled{2} \text{ 母平均値 } E[X] = \frac{4}{12} \cdot (-1) + \frac{5}{12} \cdot 0 + \frac{3}{12} \cdot 2 = \frac{1}{6} (= \mu).$$

$\textcircled{3}$ 母分散

$$V[X] = E[(X - \mu)^2] = \frac{4}{12} \cdot (-1 - \frac{1}{6})^2 + \frac{5}{12} \cdot (0 - \frac{1}{6})^2 + \frac{3}{12} (2 - \frac{1}{6})^2 = \frac{47}{36}.$$

$$\textcircled{4} \text{ 母標準偏差 } \sqrt{V[X]} = \sqrt{\frac{47}{36}}.$$

$$\textcircled{5} \text{ 確率 } E[I_{[X \leq 1]}(X)] = \frac{4}{12} \cdot 1 + \frac{5}{12} \cdot 1 + \frac{3}{12} \cdot 0 = \frac{9}{12} = \frac{3}{4}.$$

L05-Q2

Quiz 解答:確率変数の変換

$$E[X^2] = V[X] + E[X]^2 = 13.$$

$$\textcircled{1} E[-X^2 + 2X - 3] = -E[X^2] + 2E[X] - 3E[1] = -13 + 2 \cdot 2 - 3 \cdot 1 = -12.$$

$$\textcircled{2} V[-2X - 3] = V[-2X] = (-2)^2 V[X] = 36.$$

ここまで来たよ

5 略解:離散型確率変数

6 多次元の確率分布と独立性

- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 独立性

2つの離散型確率変数の同時分布 高校 数学 B 前編 確率統計 §2.4

例 6枚のカードから無作為に1枚引く. ♡7 ♡8 ♡9 ◇8 ♠9 ♣9

2つの離散型確率変数の同時分布

$X =$ 数, $Y = 0$ (赤札), 1 (黒札) とすると (x, y) を得る確率は2変数の確率関数で書ける. 同時分布, 結合分布, **joint distribution** という.

$$f_{XY}(x, y) = \begin{cases} \frac{1}{3} & ((x, y) = (8, 0)) \\ \frac{1}{6} & ((x, y) = (9, 0)) \\ \frac{1}{3} & ((x, y) = (9, 1)) \\ \frac{1}{6} & ((x, y) = (7, 0)) \\ 0 & \text{(他)} \end{cases}$$

表で書いた方がまし. ここでは, 「他」は省略.

$y \backslash x$	7	8	9	計
0	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{6}$	
1	0	0	$\frac{1}{3}$	
計				

同時分布が与えられたときの母期待値

同時分布が与えられたときの母期待値

$$E[v(X, Y)] = \sum_{x=-\infty}^{+\infty} \sum_{y=-\infty}^{+\infty} v(x, y) \cdot f_{XY}(x, y)$$

同時分布が与えられたときの確率 (母比率)

$$P(a(X, Y)) = E[I_{[a(X, Y)]}(X, Y)] \sum_{x=-\infty}^{+\infty} \sum_{y=-\infty}^{+\infty} I_{[a(X, Y)]}(x, y) \cdot f_{XY}(x, y)$$

L06-Q1

Quiz(多次元の確率変数の期待値)

2変数 X, Y の離散型確率分布を考える. 同時分布 $f_{XY}(x, y)$ が下の表で与えられる.

$y \backslash x$	1	2	3
0	0	$2/12$	$1/12$
2	$4/12$	0	$5/12$

- ① 母期待値 $E[X + 2Y]$ を求めよう.
- ② 母期待値 $E[I_{\{Y \geq 1\}}(X, Y)]$ を求めよう.
- ③ 周辺分布 $f_X(x), f_Y(y)$ を求めよう.

2次元の確率分布の母期待値の性質 高校 数学 B 前園確率統計定理 3.1(2)

$$\begin{aligned} E[v_1(X, Y) + v_2(X, Y)] &= E[v_1(X, Y)] + E[v_2(X, Y)] \\ \text{特に } E[X + Y] &= E[X] + E[Y] \end{aligned}$$

なぜなら,

$$\begin{aligned} E[X + Y] &= \sum_x \sum_y (x + y) f_{XY}(x, y) \\ &= \sum_x \sum_y x \cdot f_{XY}(x, y) + \sum_x \sum_y y \cdot f_{XY}(x, y) \\ &= E[X] + E[Y]. \end{aligned}$$

大注意: 一般には

$E[v(X, Y)] \neq v(E[X], E[Y])$ ($E[u(X)] \neq u(E[X])$ でないのと同様).
特に $E[XY] \neq E[X]E[Y]$ (独立なときはまた別に).

周辺分布

確率変数の周辺分布

同時分布 $f_{XY}(x, y)$ に対して,
 X の周辺分布 $f_X(x)$, Y の周辺分布 $f_Y(y)$ は,

$$f_X(x) = \sum_y f_{XY}(x, y), \quad f_Y(y) = \sum_x f_{XY}(x, y)$$

要するに

X だけ, Y だけの関数の母期待値

x だけ, y だけの関数の母期待値は,

下の左辺= で計算しても

下の右辺= で計算しても
同じ.

$$E[v(X)] = \sum_x \sum_y v(x) \cdot f_{XY}(x, y) = \sum_x v(x) \sum_y f_{XY}(x, y) = \sum_x v(x) \cdot f_X(x)$$

$$E[v(Y)] = \sum_y \sum_x v(y) \cdot f_{XY}(x, y) = \sum_y v(y) \sum_x f_{XY}(x, y) = \sum_y v(y) \cdot f_Y(y)$$

ここまで来たよ

- 5 略解:離散型確率変数

- 6 多次元の確率分布と独立性
 - 2次元の確率分布
 - 母共分散
 - 独立性

母共分散 高校 数学 B 前園確率統計 p.56

母共分散 covariance 前園確率統計 p.56

X, Y が確率変数で, $\mu_X = E[X], \mu_Y = E[Y]$ であるとき,

$$\begin{aligned} \text{母共分散 } \text{Cov}[X, Y] &= E[(X - \mu_X)(Y - \mu_Y)] \\ &= \text{前園確率統計定理 3.3(1)} \cdots = E[XY] - E[X] \times E[Y]. \end{aligned}$$

母相関係数 correlation 前園確率統計 p.58

X, Y が確率変数であるとき,

$$\text{母相関係数 } \rho[X, Y] = \frac{\text{Cov}[X, Y]}{\sqrt{V[X]}\sqrt{V[Y]}}$$

$-1 \leq \rho[X, Y] \leq 1$ が成立. 前園確率統計定理 3.5(p.59)

母共分散の性質

前園確率統計定理 3.4(2)

$$\text{Cov}[aX, bY] = ab \cdot \text{Cov}[X, Y].$$

L06-Q2

母共分散

さっきの問で母共分散は?

L06-Q3

Quiz(独立と限らない確率変数の母期待値)

確率変数 X, Y を考える.

$E[X] = 2, E[Y] = 3, V[X] = 5, V[Y] = 11, \text{Cov}[X, Y] = 7$ である.

- 1 $E[-2X + 3Y]$ を求めよう.
- 2 $V[-2X + 3Y]$ を求めよう.

ここまで来たよ

5 略解:離散型確率変数

6 多次元の確率分布と独立性

- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 独立性

独立性 高校 数学 B 前園確率統計 §2.5

独立性

確率変数 X, Y が同時分布 $f_{XY}(x, y)$ を持つとき, X, Y が独立とは,

$$f_{XY}(x, y) = f_X(x) \times f_Y(y)$$

が成立することをいう (世の中には, 同値な定義が多数).

X, Y が独立とは, X, Y が互いに

事象 A, B が独立 $\Leftrightarrow P(A \text{ かつ } B) = P(A) \times P(B)$ 前園確率統計 §1.2, の特別な場合.

独立性と母共分散 前園確率統計定理 3.3(4)

X, Y が独立 \Rightarrow 母共分散 $\text{Cov}[X, Y] = 0$.

すぐ後で証明.

母共分散 $\text{Cov}[X, Y] = 0$ は, X, Y が独立であるための 条件.

L06-Q4

Quiz(2つの離散型確率変数の母期待値・母平均値・母共分散・確率・独立性)

離散型確率変数 X, Y の同時分布は次の表で与えられる.

$y \backslash x$	1	3
2	$1/7$	$2/7$
4	0	$4/7$

で与えられる.

- ① X, Y が独立かどうか判定しよう.
- ② 母分散 $V[X]$ を求めよう.
- ③ 母共分散 $\text{Cov}[X, Y]$ を求めよう.

L06-Q5

Quiz(離散型確率変数の独立性)

2次元の離散型確率変数 (X, Y) を考える. 同時分布 $f_{XY}(x, y)$ は次の表で与えられる (現れない X, Y の確率は zero である).

$y \backslash x$	2	3
3	2/12	1/12
7	A	B

X, Y が独立になるように, 実数 A, B を定めよう.

X と $Y = u(X)$ は独立ではない

例

$$f_X(x) = \begin{cases} 1-p & (x=0) \\ p & (x=1) \end{cases}$$

$y \setminus x$	0	1	
$u(0)$			
$u(1)$			
	$1-p$	p	1

正確には $u(x)$ が定数関数のときは独立

X, Y が独立, はラッキー

確率分布を暗記しろって言われたときに,

- 独立じゃなかったら, 100×200 個の数をおぼえなきゃいけないところが,
- 独立なら $100 + 200$ 個の数だけおぼえればいい.

X, Y が独立なときに成立するととてもいい性質 前園確率統計定理 3.3(4)

$$E[v_1(X) \times v_2(Y)] = E[v_1(X)] \times E[v_2(Y)]$$

$$\text{特に } E[XY] = E[X] \times E[Y]$$

$$\text{特に } \text{Cov}[X, Y] = (E[XY] - E[X] \times E[Y]) = 0$$

$$V[X + Y] = V[X] + V[Y]$$

さいごの式は, 独立でなくても $\text{Cov}[X, Y] = 0$ だけで成り立つ.

証明

$$\begin{aligned} E[XY] &= \sum_x \sum_y xy \cdot f_{XY}(x, y) \\ &= \sum_x \sum_y xy \cdot f_X(x) \times f_Y(y) \\ &= \sum_x x \cdot f_X(x) \times \sum_y y \cdot f_Y(y) = E[X] \times E[Y] \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} V[X + Y] &= E[(X + Y)^2] - E[X + Y]^2 \\ &= E[X^2] + 2E[XY] + E[Y^2] - (E[X]^2 + 2E[X]E[Y] + E[Y]^2) \\ &= V[X] + 2\text{Cov}[X, Y] + V[Y] \end{aligned}$$

L06-Q6

Quiz(独立な確率変数の母期待値)

独立な確率変数 X, Y を考える.

$E[X] = 2, E[Y] = 3, V[X] = 5, V[Y] = 11$ である.

- 1 $E[(-2X + 3Y)(X + 5Y)]$ を求めよう.
- 2 $V[-2X + 3Y]$ を求めよう.

L06-Q7

前園確率統計演習問題 3.4(p.63)

L06-Q8

前園確率統計演習問題 3.5(p.63)

連絡

Moodle

<https://learn.math.ryukoku.ac.jp/>



Moodle モバイルアプリ

<https://download.moodle.org/mobile>



起動後, URL <https://learn.math.ryukoku.ac.jp/moodle> を登録

- 次回から, trial に, 前回の問題と同種の問題を再出題します (1/3 くらい)
- 今回から, 予習復習問題を, 期限後も (再/初) 受験できるようにします. 点数にはカウントしないけど, プチテスト準備に活用してね.
- 樋口オフィスアワー火昼 (1-539) 金 14:40-15:40(1-502), Math ラウンジ月-木昼 (1-614)
- Trial 予告
- Learn Math Moodle の予習復習問題で来週の trial に備えてね.
- 教科書の二項分布のところ 前圖確率統計 pp.19,20,51,54 読んできてね.
- プチテストやります! 2018-11-21 を予定